

# 令和2年度病虫害発生予察注意報第1号

令和2年5月28日  
愛知県

作物名：ウメ、モモ、ナシ、ブドウ、カキ等

病虫害名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 やや多い
- 3 注意報発表の根拠

(1) 豊橋市に設置した予察灯において、チャバネアオカメムシの誘殺数が5月第3半旬、第4半旬にそれぞれ196頭、120頭であり（図1）、5月第5半旬までの累積誘殺数は過去10年間で3番目に多い。また、豊田市に設置したフェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は5月第1半旬から急増し（図2）、5月第5半旬までの累積誘殺数は過去10年間で最も多い。

ツヤアオカメムシも豊橋市、新城市の予察灯において、平年よりも多く誘殺されている（図3）。

(2) 県内各地のモモで既に被害が発生している。

(3) 名古屋地方気象台5月28日発表の1か月予報によると、気温は高い見込みで、今後果樹カメムシ類の果樹園への飛来増加に伴う被害の発生が予想される。

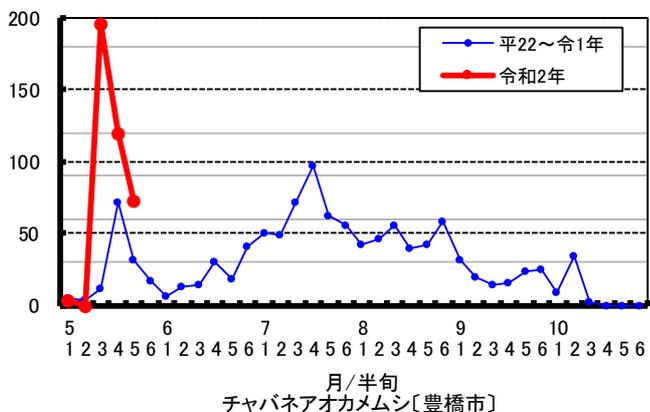


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

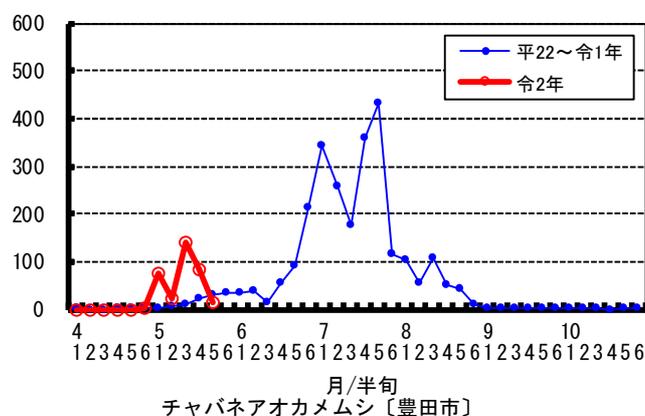


図2 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

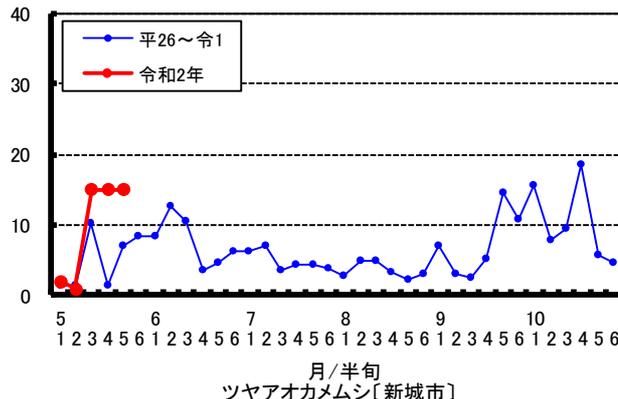
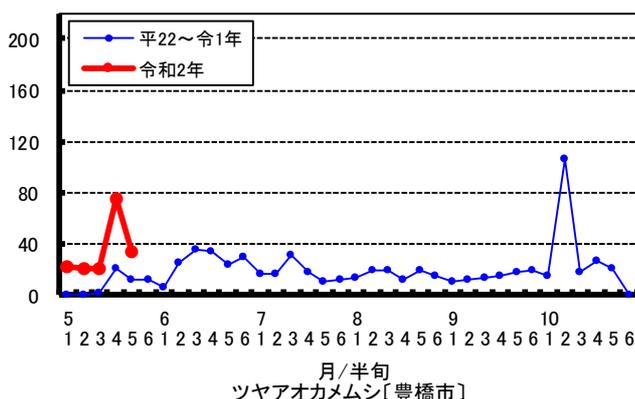


図3 予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺状況

#### 4 防除対策

- (1) カメムシ類は、20℃以上で風が弱い夜に行動が活発になり、長距離移動するようになる。そのため、平坦部の果樹園に突然飛来したり、山沿いの果樹園で飛来が急増したりするので、園内をよく見回り、成虫の飛来状況を確認する。
- (2) カメムシ類は局地的に飛来して、集中して加害する傾向がある。また、園地間差が大きいので、過去にカメムシ類の被害が多かった園では特に注意する。飛来を確認したら、表を参考に残効の長いネオニコチノイド剤もしくは合成ピレスロイド剤などで防除する。
- (3) モモ、ナシ、ブドウなどで袋がけを行う場合は、なるべく早く行う。

表 カメムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	成分名	使用時期	使用回数	IRACコード
うめ	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	収穫7日前まで	2回以内	4A
	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	収穫前日まで	3回以内	4A
	スカウトフロアブル	トラロメトリン	収穫前日まで	3回以内	3A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫前日まで	3回以内	4A
もも	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	収穫7日前まで	3回以内	4A
	アドマイヤー顆粒水和剤	イミダクロプリド	収穫3日前まで	2回以内	4A
	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	収穫前日まで	3回以内	4A
	MR. ジョーカー水和剤	シラフルオフエン	収穫前日まで	2回以内	3A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫前日まで	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	ピフェントリン	収穫前日まで	2回以内	3A
なし	MR. ジョーカー水和剤	シラフルオフエン	収穫14日前まで	2回以内	3A
	アドマイヤー顆粒水和剤	イミダクロプリド	収穫3日前まで	2回以内	4A
	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	収穫前日まで	3回以内	4A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫前日まで	3回以内	4A
	スカウトフロアブル	トラロメトリン	収穫前日まで	5回以内	3A
ぶどう	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫前日まで	3回以内 (塗布は1回以内)	4A
	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	収穫前日まで	3回以内	4A
かき	MR. ジョーカー水和剤	シラフルオフエン	収穫14日前まで	2回以内	3A
	キラップフロアブル	エチプロール	収穫7日前まで	2回以内	2B
	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	収穫7日前まで	3回以内	4A
	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	収穫3日前まで	3回以内	4A
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	収穫前日まで	3回以内	4A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫前日まで	4回以内 (塗布は1回以内、 散布は3回以内)	4A

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

2B：フェニルピラゾール系 3A：ピレスロイド系、ピレトリン系 4A：ネオニコチノイド系  
IRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2019/mechanism\\_irac02.pdf](https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2019/mechanism_irac02.pdf)を参照する。  
薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

#### 5 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室  
電話：0561-62-0085 内線471